

令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立湖東中学校)

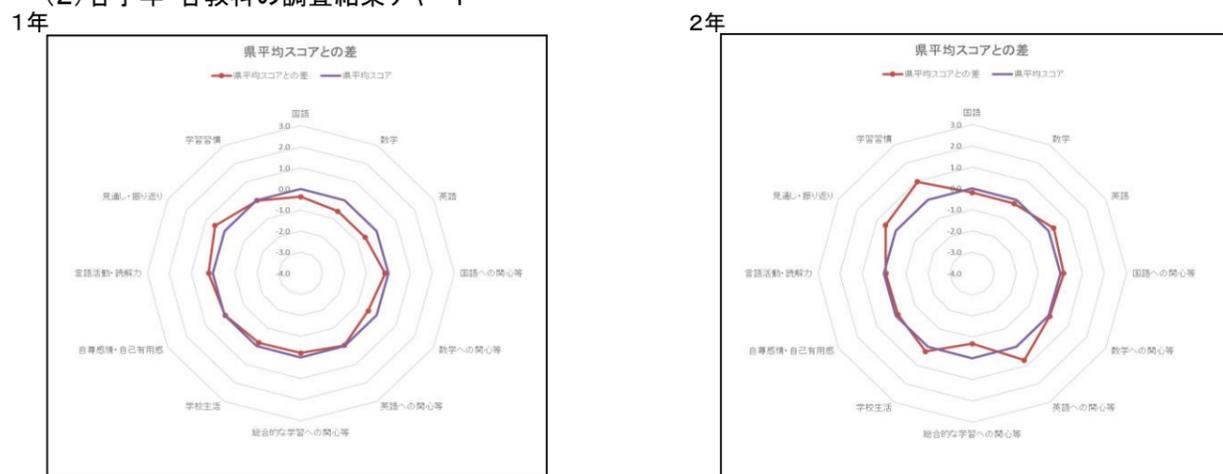
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○「話す・聞く」領域についてはほぼ達成できている。また、解答形式が記述式の問いでも、記号選択の問いと比べて達成度に大きな差がない。 ●自分の考えを求められた条件に合わせてまとめ、記述する問いで達成度が低い傾向がある。	・様々な学習活動を通して語彙を増やし、自分の考えや伝えたいことを表現する力をつける。 ・「書く」活動や「話す・聞く」の学習で、他教科や学校行事での学習内容と関連させて意見をまとめる学習場面を設定し、目的に合わせて効果的に表現する力をつける。
	数学	●全体的に県の正答率を下回っており、中でも、分数を含む計算や、数量の関係を文字式で表したり説明したりする問題の無解答率が高かった。 ●正答率の低い生徒の割合が高く、数学への関心が低い。 ○資料の活用、正負の数の計算や1次方程式は、比較的正答率が高い。	・教材を視覚的に工夫して分かりやすくしたり、難易度別問題を作成したりすることで、下位の生徒にも分かる、できる喜びを実感させる。 ・小プリントによる問題演習を毎時間実施することにより、復習を習慣化し、内容の定着を図る。
	英語	○英語の長文を読むとする意欲がある。 ●「自分の気持ちや考えを英語で伝え合う活動をよくしている」と感じている生徒は多いものの、表現力を問う問題での正答率が低い。 ●質問に対して、それを聞き取り、適切に回答する力が弱い。	・平素の授業で行っている表現活動の課題設定を工夫し、楽しく意欲をもって学習に取り組めるようにする。また、話す活動を書く活動につなげていく。 ・スモールトークなどの帯活動を活用して、質問と応答の流れを日々の授業の中で身につけていけるように工夫する。
2年	国語	○常用漢字の読みについてはほぼ達成できている。また、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつこともできている。 ●話す・聞く力、書く力が他の力に比べて劣っている。書くことについては無解答率が高く、抵抗があることがうかがえる。	・授業や学習大会を利用して、既習の漢字や言語事項について確認、復習する機会を増やす。 ・授業の中で、自分の考えを整理し、表現する場を設定する。また、定期試験では作文問題のテーマを事前に知らせることで、全員が作文に取り組めるようにする。
	数学	○正負の計算、空間図形は、比較的正答率が高い。 ●県と比較すると、数と式、関数領域に課題がある。 ●1次式の加減、単項式の乗除、等式変形など基本技能の定着に課題がある。 ●正答率の低い生徒の割合が高く、無解答率も高い。	・数と式、関数分野などの課題分野を再学習する。 ・家庭学習の習慣がついてきているので、家庭学習等でも繰り返し練習できるよう課題を出す。 ・ICT機器を活用し、動画や画像を見せながら問題をイメージさせ、生徒の思考の過程を支援する。
	英語	○書かれた英文から必要な情報を読み取り、話の要点を捉える力が伸びた。 ●長めの英文を聞いたり読んだりして自分の考えを表現する問題の無解答率が高く、苦手意識のある生徒が多い。	・暗唱や単語テスト等を今後も継続して行うとともに、書くことが苦手な生徒に対するフォローアップを更に充実させる。 ・自分の考えをもち、習得した知識・技能を活用する場を授業や家庭学習で増やしていく。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	○友達との話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりする意識が高い。 ●学習規律の意識が低い。総合学習の時間では、自分で情報を集めたり情報を課題に沿って整理し、考え、発表する学習に課題がある。	・話し合い活動を授業の中でさらに、意図的計画的に行い、生徒一人一人の学習意欲の向上を目指す。 ・学校生活の学習規律を守ることを最優先し、学ぶ意欲の向上を育成する。
	家庭学習に関わる事項	○自宅で学校の予習・復習をしている意識は高い。 ●家庭学習の時間が全体の半分以下で低い。また、携帯電話やスマートフォンの使用時間が長く、家庭学習の時間が短い。家庭での学習の仕方や意識の低さに課題がある。	・保護者や参観日等を活用し家庭学習の大切さの啓発活動を保護者と協力の下実施する。 ・各家庭との連携を通して、学習習慣の定着を図る。 ・生徒の実態を把握し、課題の出し方や、取り組みを工夫する。 ・保護者を交えた、メディア教育の充実を図る。
2年	授業改善に関わる事項	○授業では、学習の目標を意識して取り組んでおり、学習規律もよく守られている。学習方法の指導や発展的な学習など教師の指導が成果を上げつつある。 ●総合的な学習に対する意識が低い。また、学校図書館を活用しての授業に課題が見られる。	・引き続き、めあての提示を徹底し、振り返りの時間も充実させる。 ・総合的な学習については、キャリア教育と関連付けながら学習内容を充実させる。また、各教科の授業において、計画的に学校図書館を活用し、生徒の興味を高めていきたい。
	家庭学習に関わる事項	○家庭での学習習慣が身につけている生徒の割合が高い。特に、宿題や予習・復習に対する意識が高い。 ●普段の読書量が少ない一方で、携帯電話の使用時間が長い生徒が多い。前年度よりも全体的に使用時間が伸びており、生活が不規則になるケースも見られる。	・引き続き、フスタ(自学ノート)への取組を徹底し、内容についてさらに充実するように支援をする。また、受験対策用テキストを利用し、学力向上を目指す。 ・メディアとの接し方について継続的に指導するとともに、家庭との連携を図り、よりよい生活習慣の定着を図る。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	61	34	50
	松江市	69	52	64
	島根県	68	49	62

受検者数
1年生 122 人

(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	74	33	58
	松江市	77	40	54
	島根県	77	38	53

受検者数
2年生 105 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

